

平成29年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 高見 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成29年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動と一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

※ [8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン・持久走、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる(本校は20mシャトルランを実施)

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

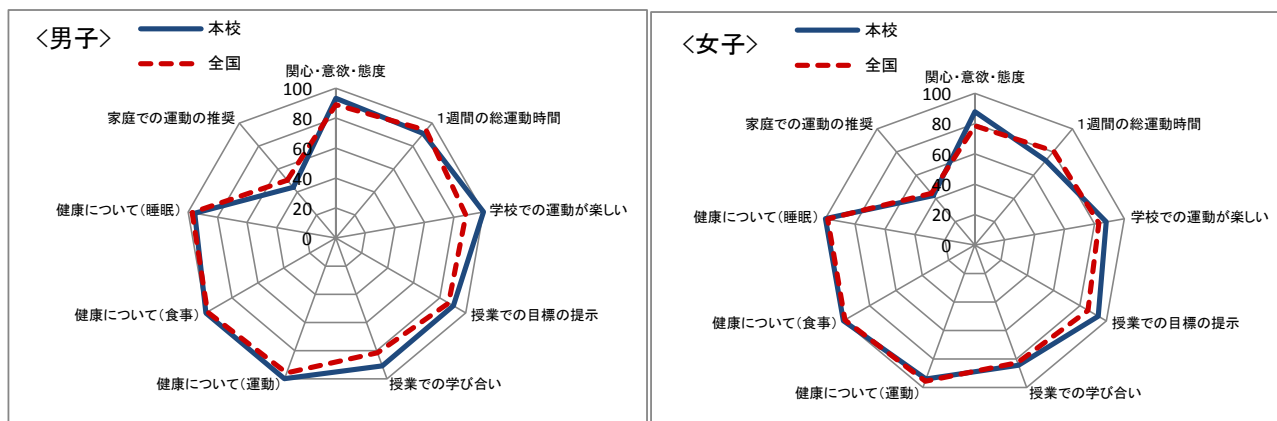
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	28.89	27.45	43.20	51.89	391.23	85.99	7.99	194.54	20.56	42.11
本市	30.03	28.52	45.87	52.20	385.94	86.32	7.88	200.58	21.32	44.57
全国平均以上の種目		○		○	△		○			

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	23.82	23.73	45.86	46.76	287.36	59.14	8.80	168.57	12.96	49.97
本市	24.42	24.60	49.11	46.77	289.36	58.86	8.76	174.36	12.78	51.77
全国平均以上の種目		○		○	△					

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

○男女ともに運動への意欲・関心・態度への意識は高く、運動好きな生徒も多い。また健康についての意識も高いことがアンケート結果から伺える。しかし、自宅に戻ってからの運動時間が全国平均よりも男女ともに下回っている。地域に運動をする場所が少ないことや、習い事等による運動時間の確保が難しいと考えられる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で)

○授業開始時に補強運動において、ジャンプアップ運動・コアスタビリティ・ムービングプレパレーション(体幹トレーニング)を取り入れている。ジャンプアップ運動は昨年度より取り入れているが、体幹トレーニングは今年度から取り入れている。体幹トレーニングに期待できる効果として、身体の姿勢が良くなり、関節の可動域が広がり、より効率よくパワーを発揮できる。また、血流を良くすることや筋を温めることができるため、けが予防にもつながる。主運動につながる補強運動を単元に応じて実施させ体力向上につなげていく。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

○保健体育科授業において、運動の効果を適宜生徒へ発信することで意識の高揚につなげる。また、新体力テスト(スポーツテスト)の結果を家庭に持ち帰らせ、保護者にも運動への関心を持っていただけるように働きかける。小学校とも情報交換を行うなどの連携を通して校区での取り組みや課題の検証を進めていく。